



春日小だより

令和6年9月2日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 9月号

心熱かった夏

校長 後藤 京子

2学期のスタートです。3か月予報では、夏休みから続くこの厳しい暑さは、2学期が始まってでも続くようです。熱中症予防を確実にしながら、子どもたちの安全、安心を第一に教育活動を進めてまいります。

この夏、気温だけでなく、応援する声も熱気を帯びていたのではありませんか。夏休み前に、子どもたちにも、パリオリンピックのピクトグラムを紹介し、東京大会よりも競技数が4つ増えたことや種目数について紹介しました。また、運動委員会の子どもたちが、注目選手の紹介や競技の紹介を校内に掲示してくれました。私は日頃、スポーツには縁遠いのですが、東京大会を機に、オリンピックに興味をもつようになりました。そして今回は、練馬区の選手も活躍しました。フェンシングの競技では、練馬区在住の永野雄大選手が男子フルーレ団体で金メダル、また、練馬区にあるクラブに所属している敷根選手、見延選手も大躍進でした。そんな中、私が最も応援していたのは、卓球選手の早田ひな選手です。たまたまTVで見ていた混合ダブルスで敗北を喫した選手と女子シングルス準々決勝で激突します。早田選手は世界ランク5位、相手の選手は165位。楽々勝てるであろうと思っていましたが、ゲームカウント4対3まで進み、大激戦を制し、ようやく準決勝に進出することができました。しかし、早田選手は、手首付近を負傷してしまいました。ドライヤーを持つこともできず、一人で入浴すらできなかつた早田選手は、その後の準決勝では、完敗を喫してしまいます。ここで、私が目を引かれたのは、優勝した孫穎莎選手が早田選手の左手の損傷について声をかけている姿でした。試合後のインタビューでも早田選手のけがを心配していました。「優勝」「金メダル」にばかり目が行きがちですが、これこそがスポーツマンシップではないかと思いました。その後、3位決定戦では、痛み止めの注射をし、臨みました。そして、銅メダルを獲得しました。さらに、団体戦では、銀メダルでした。今回のオリンピックは、一人一人の見えない努力がメダルという目に見えるメッセージより、深く私たちの心に大きな影響を与えるという事を、改めて感じさせてくれました。

東京大会では無観客で行われた競技ですが、パリでは、連日、ほぼ満席で各選手たちに声援が送られました。この様子を見て、学校教育も同じだと感じました。子どもたちが精いっぱい頑張っている姿に家族や友達の応援は欠かせません。声援が伝わることで、もてる力以上の力量が発揮されます。2学期、本校では文化的行事としては、学芸会、さらに、各学級が力を合わせて行うキッズフェスティバル、5年生の移動教室等があります。オリンピックで掲げられた「一歩踏み出す 勇気を」のメッセージは、オリンピックに限らず、初めて体験する行事や学習でも同じだといえます。80日間という、1年間で最も長い2学期、引き続き、ご家庭のご協力、ご声援をお願いいたします。